

復興は健康から

いわて東北M・Mの取り組み

— 10 —

— 長い期間での研究、取り組みが重要と思われ。機構長としてメディカル・メガバンク機構による10年後、20年後の成果の形をどう描いているか。

祖父江 少なくとも、国では東北メディカル・メガバンク計画を10年がかりの事業として、岩手医科大学が一昨年度から参画したこの事業

は、被災した地域を中心に沿岸の地域医療復興支援が第一と考えている。まずは住民の方々に、医療面での復興支援を行う。それを通して、住民の方々のコミュニケーションが絶たれていることへの支援も進めたい。さらに重要なのは、住

10年先を見据えて

民一人ひとりが健康への意識を高めてもらうこと。最終的には沿岸被災地域のみならず、岩手全県に広がる健康向上への活動につなげていくことが大事と考えている。これだけ広範な地域での健康向上に向けた活動はこれまでになく、いわてモデルとしてぜひやりたい。

この事業に関して、住民の皆さんが「受け身」ではなく逆に立ち上がり、「健康は自分たちで何とかしなければ」と主体的に動き出す時が、成功したと言える時ではないか。

我々や自治体がうんぬんではなく、自分たちの健康のために自分自身が

行動を開始する。住民の方々の地に足のついた活動にもっていかれば、この事業は大成功と言える。一人ひとりが自分の健康を守るという意識を持つ、例えば食生活を

作ること。今回は震災ストレスを受けた方々を対象とした生体試料のバンク。これは世界初の大規模な試みであり、提供いただいた健康情報と生体試料を用いて、ストレスがどのように人に書き及ぼし、さまざまな病気を引き起こし、あるいは悪化させるかを解析する。これによって、一人ひとりで異なる病気の発症予知、予防といった新たな

のは、住民の方々が健康への関心を持ち、健康を維持すること。1年後、2年後に結果を出すのはなかなか難しいと思われるが、この事業の活動を通して多くの住民の方々が、健康への意識を持っていただければと思う。

事業における今後の展開は、また、住民、行政側に期待している協力体制のあり方は。自治体に関しては、現在も大変協力していただいている。今後とも自治体・医師会・県立病院と連携を強め、粛々と事業活動を継続していく予定だ。

健康意識の向上を

祖父江機構長インタビュー④

変えよう、運動しよう、歩こう、身近な人々と話し合おうという雰囲気が高まり、自ずと健康に目を向ける人々が増えてくる。

医療分野（次世代個別化医療）を開拓することを目指したい。

祖父江 気仙サテライト施設を、県立大船渡病院付属住田地域診療センター内に設けた。開設に

メガバンク事業の柱の一つが解析研究。これは住民の方々のご理解とご協力により、健康情報と健康診断時に血液・尿など（生体試料）を提供いただき、巨大なバンクを

この事業を進める上で課題の一つは、年間で30兆円に上る国の医療費問題。健康意識の向上と次世代個別化医療の実現化で皆さんが健康になれば、医療費の削減につながり、福祉など他分野の予算を充実させることもできる。その上で重要な

の伊藤達朗院長にご尽力いただいた。住田は大船渡から少し離れているが、大船渡・陸前高田とは車でほぼ30分程度の等距離に位置している。特定健康診査対象外の方々や特定健診会場で追加検

査をご希望された方々に人間ドック並みの詳細な健康調査に参加していただけるようにしたい。当面は健康チェックからスタート。さらに将来的にはサテライトをベースとして、メガバンクのメンバーが手分けをしながら各地の公民館・集会所などで健康教室を開催したい。

皆さんがどのような生活を送れば健康になるのか、注意点はどこかなどをお伝えし、医師だけではなく看護師、保健師の

方々にもご協力いただきながら各地域住民の健康意識の向上を目指したさまざまな活動を行っている。それがサテライトの目指す役割。この事業をきっかけに、自分の身体を見つめ直していただく機会になればありがたい。



矢巾町にキャンパスを構える岩手医大